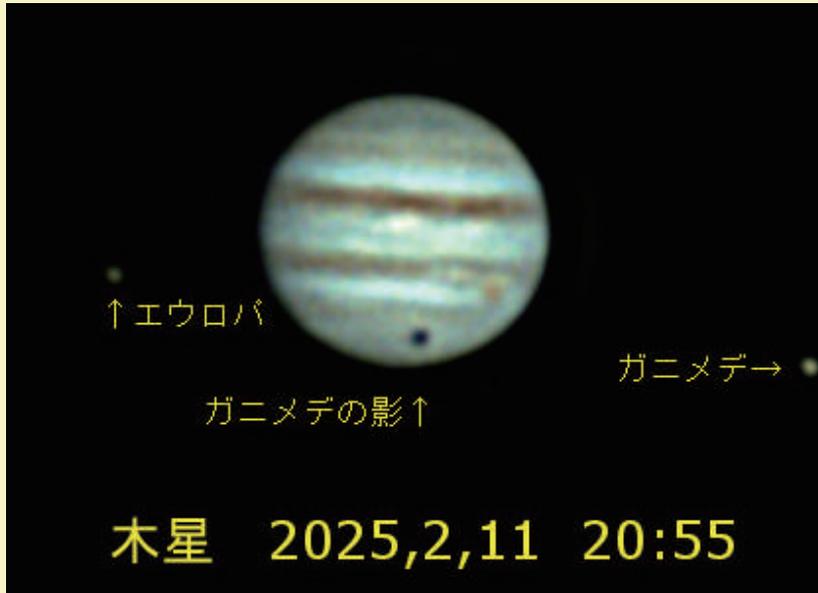


教文通信写真館

黒い円



写真とエッセイ：森嶋 光 さん（理科教育研究会 屋代高校）

ガリレオ・ガリレイが自作の望遠鏡を木星に向けて四大衛星（ガリレオ衛星）を発見してから早や400年以上が経とうとしています。写真は今年の2月に木星を撮影したのですが、撮影した動画から画像化中に見慣れない黒い円が浮かび上がってきました。これは木星表面に「大赤斑」ならぬ「大黒斑」が出現したところを大発見か!? エッセイの続きは8p

教文通信

発行所
長野県教育文化会議
発行人
田澤 秀子

今号の記事

- 01 職場教研①
- 02-03 教文議長 年頭所感
- 04-06 職場教研②
- 06 教文通信写真館エッセイ（つづき）
- 07 第3回教文運営委員会報告
- 08 研究会案内（総研・全県研究会）
書籍案内

2026年も旺盛な学びの年に 各校 工夫凝らして 職場教研続々

高遠高校では第2回校内研修会が11月12日(水)に行われました。

「地域の老舗に学ぶ」をテーマに、伊那市内で明治44年より創業の『信濃錦』蔵元(資)宮島社長 宮島 敏さんに蔵の歴史や経営理念などのお話を伺いました。宮島さんは蔵元になる以前は米穀商を営んでおられ、100年以上の歳月を重ね原材料にこだわり、人として安全な食品を造るという理念を掲げて三代にわたります。伊那市の各地で農家の方と田んぼで汗を流し、水の源流となる山へも足を運び、地域の方や自然とともに歩いてこられました。美しい自然を大切にし、次世代の子ども達に受け継いでもらいたいという思いは、私たちの仕事にも繋がっています。特別に蔵の見学もさせていただきました。衛生管理のため、しっかりと帽子をかぶり消毒をして入ります。生き物相手ゆえの蔵の中の温度管理・衛生管理など様々なことに気を配ってのお仕事は本当に大変だと思います。酵母の発酵するところを初めて拝見しましたが、プクプクと白く泡立って可愛らしかったです。最後は山岳写真家でもある社長さんの山のお写真や動画も拝見させていただきました。本当に伊那谷の自然を愛していらっしゃるのだなと感じました。見るもの、聞くこと初めてのことでばかりで、とても楽しく新しい学びとなった研修会でした。



高遠高校 老舗酒蔵を見学

職場教研の続きは4P

2026年の始まりに

教文会議議長 田澤秀子



昨年は戦後80年という節目の年であり、過去の戦争を振り返り平和への思いを一層強くしていく一年となることを期待したが、現実の政治はアジアの敵を想定し戦争の準備を着々と進めていこうとする動きが一層顕著になった。

◆2024年に日本被団協がノーベル平和賞を受賞し、幸先の良いスタートになのではと楽観的な予測をしていた。しかし、1月にトランプ氏が大統領2期目となり、「アメリカファースト」(自国第一主義)により他国をけん制し、新たな緊張を生み出す発言が世界のニュースで報道された。アメリカ国内においては「常識の革命」と称して「不法移民の大量強制送還」、「性別は男女のみ」とされ、多様性・公平性・包括性(DEI)を否定する政策へ大きく転換し、連邦職員の大規模解雇を実施した。そして、4月には世界に向けて相互関税を発表し、世界経済に混乱を招いた。異なる意見や批判を許さず、政策を議論するのではなく相手を愚弄し、自らの非は認めず都合な真実はフェイクだと主張する。自分に反対したり批判する人々は「人間のクズで狂信集団の左翼」と暴言を吐く。これが一国を代表する大統領の発言なのか、政治権力を私物化し身勝手な言動が世界に向けて繰り返される度に強い憤りを感じた。しかし、こうした態度を「今までの政治家と違って、

実行力がある」「何かやってくれそうだ」「言えなかったことを言ってくれる」と期待し称賛する風潮もみられる。マウントをとって自分の優位を誇示することで強さを強調する政治的手法が2000年代以降際立って現れ始め、現代は「権威主義の台頭」「民主主義の危機」の時代といわれている。

◆日本においても同様の傾向がみられ、7月の参院選挙では外国人への規制強化や権利制限の政策が争点となり、「日本人ファースト」を掲げる政党が議席を伸ばした。日本で在留外国人が増加した理由は、第2次安倍政権下で行われた、人手不足解消のために日本にとつて都合よく安い賃金で雇うことができ外国人を受け入れる政策によるものである。「現代の奴隷制度」と批判された政策であるが、外国人実習生の斡旋に絡む利権問題に関わる元政治家たちの存在があり、「留学生」「実習生」の根本的な問題を議論することなく進められてきた。また、人口に占める割合が3%の在留外国人に対して、税や社会保障で優遇されているなど根拠のない誤った情報がSNS上に拡散し、日本経済が停滞している原因が外国人の流入にあるとした。正に「デマゴーグ」の実際を目の当たりにした選挙戦であった。

◆そして軍事費増大の前倒しを表明する高市政権が誕生し、今年度の防衛予算は9兆円台となり過去最大となった。増加した防衛費をまかなうため、2027年からは所得税増税を実施する。今年の夏には、「継戦能力を高めるため」更なる防衛費増額を目指して安保関連3文書の改定に向けた骨子案を策定する計画である。こうした戦争への準備は、これまでに着々と行われてきた。2013年に国家安全

保障会議が内閣に設置され、防衛装備移転三原則特定秘密保護法、2014年集団的自衛権の容認が閣議決定され、翌2015年の安全保障関連法成立へと続く。この間、教科書検定基準に「政府の統一見解に基づく記述」が追加され、歴史教科書から「従軍慰安婦」「強制連行」の言葉が削除された。学術的検証よりも政府の見解を重視する教育政策が行われる中、大学での従軍慰安婦やフェミニズム研究に科研費をつかうなどという現職議員による中傷がSNS上で行われた。その後、日本学術会議法が改正された。戦後「戦争を目的とする科学研究には絶対従わない表明」をし、政府から独立した機関として政策に助言を行ってきた組織を国の統制下におき、軍民共同で軍事研究を進めていく道をひらいた。こうした政府の意向を受けて、これまで軍事研究や人類の福祉を抑圧する活動を禁止してきた大学も、大きく方向を転換する動きをみせている。昨年の8月には敵基地反撃能力を具体化するものとして、スタンド・オフ・ミサイル配置計画が発表された。これは、米軍に頼らず日本が主体的に攻撃できる手段としての防衛力強化を目指しているものであるが、中国からの攻撃を想定して画策されている。この3か月後に衆院予算委員会で高市首相の「存立危機事態」の発言があった。この発言の撤回を中国は求めているが、日本政府は応じず断固たる態度を貫くとし、日中関係は悪化の一途をたどっている。これにより、政府がかねてより主張している日本を守るために軍備を増強する必要性が現実味を帯び、軍備拡大を必要とする世論が高まりつつある。しかし、日中関係のゴタゴタを利用し日本国憲法の平和主義を骨抜きにし、

戦争へと国民を煽り立てることにより、自民党政権での政治と金の問題から国民の目をそらし、利権政治の仕組みを温存しているかのようにしているのではない。韓国では、政治資金法違反罪で旧統一教会の韓鶴子被告が起訴されているが、教団の内部報告書には、自民党議員290人を支援し、安倍晋三元首相と面談し選挙での動員票を最低20万票を死守する約束をしていたことや高市早苗首相の名前も32回登場していることがメディアで報道されている。また、高市氏には別の宗教団体からの献金問題もあるが、国内ではサナエノミクスや流行語大賞などでもはやされ、金権政治の問題を真剣に取り上げ問題視する世論には成りえていない状況になっている。

◆冒頭で、昨年は戦後80年の節目の年であったと記したが、イタリアのムッソリーニ率いるファシスト党が独裁体制を確立して100年目となる年でもあった。選挙制度を改悪し不正選挙によって議会の3分の2の議席を掌握したファシスト党は、ファシズムやムッソリーニを批判する報道記事を犯罪とし、腐敗行為を非難した政治家を殺害した。そして、国家防衛法を制定し秘密警察を設置して、労働運動や政党活動を禁止した。こうして、ムッソリーニを誰も公然と非難することができない体制を作りあげ、権力の座を掌握した。その後、教育政策に力を入れ、未来の兵士をつくるための「全国バリッラ事業団」を創設し、国定教科書を通じて子どもたちを軍国少年少女へと洗脳する教育システムを構築した。同時にヒトラーもいたが、この二人の演説をきいたウーゴ・オイエッティらは「この国の政治活動をきいた世

界」を提示するわかりやすい彼らの演説に、強い指導者として国を統率していくことへの大きな期待を抱いた。

◆昨年末よりアメリカ国内では、トランプ大統領の支持率は30%に落ち込んでいる。今年の中間選挙を控えて支持率低下に悩むトランプ大統領は、ホワイトハウス公式サイトに内政権に批判的な報道を名指して批判する専用ページを開設した。政権を批判する記事を書いた記者たちに「偏向」「虚偽」「左派の狂気」と中傷し、メディアに対して放送免許の取り消しや巨額の賠償訴訟の提起をするなど脅しをかけている。また、地球温暖化論やジェンダー多様性を敵視し、これに関連する研究を行う大学やDEI教育のプログラムを実践する公立学校に資金供与を停止した。

◆日本の高市首相の支持率は高いまま推移しているが、今から9年前の2016年、高市首相が総務大臣の時、やはり衆議院予算委員会での発言であったが、「憲法9条の改正反対の内容を放送した場合、電波停止となることあり得る」と発言した。「政治的公平性」を理由として、政府を批判する放送は規制されることを示した内容である。また、2024年より防衛省が小学校に配布した「はじめての防衛白書」では、「北朝鮮・ロシア・中国が軍事活動を活発に行っているため日本周辺は安全ではない」「敵基地攻撃能力によって日本を攻撃する考えを相手に持たせない」「ウクライナは防衛力が足りないためロシアに責められた」という記述がある。防衛省は、この冊子を図書館におき総合的な学習の時間での活用をすることを勧めている。

◆権威主義的な政治体制は、非常によく似ていると言われている。二度にわたる世界大戦の惨禍から将来の世代を守るために設立された国際連合において、1948年に採択された世界人権宣言には「世界における自由、正義及び平和の基礎」は、人類すべての人の「譲ることのできない権利」である「固有の尊厳と平等」を守ることであり、「人権の無視及び軽侮が、人類の良心を踏みにじった野蛮行為」である戦争を引き起こしたとしている。世界人権宣言には、戦争は国を守るためではなく野蛮行為であるとしている。学問の自由・教育の自由・知る権利・言論の自由が奪われていくことは、危険な兆候である。日本では、「防衛装備移転三原則」の見直し、「能動的サイバー防衛」基本方針が閣議決定されて行く中、首相の側近から「核兵器を持つべき」という発言があった。戦争が暗闇の中から、その不気味な顔をうつすらとしかし輪郭が徐々に明確になって、次期にはつきりと現われてくる恐怖を感じる。

◆戦争ではなく平和の準備をすすめていくためにできることは何か、私たちの身近な生活から一人一人の権利を大事にすることを考え、それを実践していくことこそが、この恐怖に打ち勝つていくことができるのだ。強権的な政治やファシストたちは教育政策を重視し、政府の指示に従う国民を育成し権力を独占しようとする。学校が、生徒や教職員の権利を大切にできる場として機能していくために、私たちは何ができるのか。平和な社会の構築に向けて参加と共同の学びの場を実現できる学校づくりを目指して、これからも共に前進していきましょう。

上伊那農業高校

オトナの禁断の趣味 そば打ちに挑戦!!



小麦粉2の二八そばです。「水回し」↓「ねり」↓「のぼし」↓「たたみ」↓「切り」の工程を実演いただきました。その後、2人1組になってそば打ち開始。いざやってみると…これがなかなか難しい。まず、水回しで粉がなかなかまとまってくれない。まとまっても練るのに力がある作業に、あちこちで助けを求め

今回は、そば打ちの大家、非常勤講師の藤澤昭二先生と生命探求科の境久雄先生のお二人を講師にお願いして、そば打ち会。参加者総勢23名で開催しました。はじめは藤澤先生のデモンストレーションから。そば粉8…

る声も。打ったそばはチーム!?毎に半分こして持ち帰り、打ち終わったところで講師のお二人がそば打ち会前に予め打ってくださったそばをいただきました。そばをいただく際には、野菜コース・フードコースからご提供いただいた「ねぎ」「大根おろし」「唐辛子」「すんき漬け」などを薬味に、また、つけつゆは境先生が仕込んでくださった「割り下」をだし汁で割ったものを用意していただきました。とっても美味しかったです。参加された方々が終始笑顔で和気藹々と取り組んでおられたのが印象的でした。こんな職場教研もいよいよね、と思えた11月の午後でした。



岩村田高校 軟式野球の試合で交流!!



9月25日、本研修として「ヒバクシャのお話を聞く会」を開催しました。研修は2部構成で行われ、1部では、被爆体験を後世に伝えるプロジェクトとして、戦後80年目の証言をまとめた冊子「願いをつなぐ」の報告がありました。長野県内に住む被爆者8人と2世5人、計13人の聞き取りをもとに作成されたもので、学校でも活用できる内容にしたいという思いが込められています。担当の原さんからは、多くの方々が関わり、思いのこもった一冊になったとの報告がありました。

9月25日、本研修として「ヒバクシャのお話を聞く会」を開催しました。研修は2部構成で行われ、1部では、



本部分会 戦争被爆80年 ヒバクシャのお話を聞く



駒ヶ根工業高校 茗テラリウムを製作し お茶をたしなむ ロボット研究製作部キャリー班の活動見学と激励

2部では、ヒバクシャの証言として今井和子さんにお話を伺いました。今井さんは4歳のとき、東京から広島へ疎開し、爆心地から2キロの地点で被爆されました。幼い頃の記憶でありながら、当時の情景が鮮明に伝わってくるお話で、それだけ今井さんの記憶に深く刻まれるほどの、凄まじい体験であったことが感じられました。

今、世界には1万2千発もの核兵器が存在するといわれています。今井さんは、いつ核兵器が使われ

てもおかしくない現状に深い不安と憤りを感じておられ、核兵器禁止条約の発効こそが願いであり希望だと語られました。お話を伺いながら、「語り継ぐことの重み」を改めて実感する時間となり、平和を願う気持ちを次の世代へつないでいく大切さを静かに感じました。

今回の研修は、被爆を体験された方の生の声に触れることで、平和についての理解を一層深める貴重な機会となりました。

○ロボット研究製作部 見学会

・10月20日、21日実施 参加者7名
長野県予選で2位を獲得したロボット研究製作部は、昨年度全国大会で優勝・準優勝の1、2フィニッシュの快挙を果たしました。今年も全国大会で上位入賞を目指して、工夫と練習の日々を送っています。ロボット研究製作部が見学者がいる中で緊張感をもって、本番さながらの練習を行いたいとのことなので、それに便乗する形で校内教育研究会として、大勢の先生方にも参加していただきました。大会用ロボットは非常に精密に作られており、操縦もかなり難易度が高いです。生徒は本番さながらのルールでロボットを操縦

見事に得点をあげることができました。操縦するロボットとは別に自律型の小型ロボットも同時に動作しており、こちらも見事な動きでした。本番の全国大会では上位入賞は惜しくも逃しましたが、ものづくり魂を感じさせてくれる研究会となりました。

○抹茶と楽しむ茗テラリウム

・12月24日実施 参加者5名
日頃親しむ機会が少ないお抹茶と手軽にできる茗テラリウム制作を研究会テーマとし、当日は5人参加となりました。テラリウムは水槽内に人工的に再現した水辺のことをいいます。今回は小さなプラスチックケースに茗テラリウムを構築します。主役の茗は駒工周辺で採取した杉茗、ゼニ茗、名称不明な3種類の新鮮なものを準備しました。今回はプラスチックケースを利用していますが、ガラスコップなどを使うと高級感が増します。ベースとなる園芸用顆粒状の土を入れて、水で満たします。次に茗を植えるのですが、高さを揃えるなど工夫しているとそれなりに時間がかかります。石や飾りを配置するとひとまず完成です。完成した茗テラリウムを眺めながらお抹茶とお菓子を頂きました。お抹茶を頂く作法を教えていただいたので、楽しみながらのお茶会となりました。茗テラリウムを眺めながらお抹茶を頂く、気持ちは日本庭園にいるような気分になりました。短時間でしたが、有意義な研究会となりました。



佐久平総合技術高校 浅間キャンパス
SDGsなおやつで
地域連携活動を知る



12月23日に、職場教研を実施しました。
職場づくりと学びに取り組んだ、感動の内容は・・・!!

全国レベルで大活躍中である農業科食品開発コース&食品加工部が、SDGsに基づいて地元企業とコラボしながら開発・製造してくれた、その名も「おつかレーばん☆」。SDGsなおやつを味わいながら、付属の資料を見て、地域との連携や協学、食育や持続可能な仕組みづくりについて個人研修ができるプレゼントを校内にお配りしました。

農業科の生徒の学びの内容や身に着けた技術について知り、本校が地域といかに連携・協同をしているかについて、このプレゼントを通じて共有し、学科を超えた生徒理解に繋がっています。配布物による個人研修の対象者は、常勤職員だけでなく、非常勤・兼務・行政・農林技師の先生方など、職員名簿に掲載されている方全員としていところに「個人研修ながら全員研修」の意義があると考えています。パンの中身には佐総名物の「福神漬け」が入っており、絶妙な味の「ハーモニー」が過酷だった2学期の疲れをじんわり癒してくれます。農場の窓からは、先生方が寒空の下、圃場管理をされる様子

教研活動補助
・・・ 職場教研・支部ミニ教研

皆さんの職場・支部で行っている、職場教研・支部ミニ教研に、活動費を補助しています。各校・各支部、さまざま創意工夫を凝らした教研活動が行われていることと思います。こんな教研を行ったよ！ という報告とともに、申請いただければ、

- ☆ 職場教研：2万円
- ☆ 支部ミニ教研：8万円



を補助します。
申請用紙は、教文 HP に掲載しています。コチラから

教文通信写真館エッセイ (つづき)

…実はこれは、たまたまガリレオ衛星のうち木星に近い方から3番目のガニメデの影が木星上に掛かったものなのです。つまりこの黒い円の下ではガニメデによる日食が起こっている最中なのです。その証拠に写真右側端に黒い円と同じような高さでガニメデ本体が写っています。調べてみるとこのような四大衛星による木星上の日食は、結構頻繁に起っており、天文シミュレーションソフトで確認すると、この写真を撮影した今年2月には26回程度起っていました。これはガリレオ衛星の木星を周る公転周期イオ約1.77日、エウロパ約3.55日、ガニメデ7.17日と今年2月の日数28日間から計算される平均の約27.6回とかなり合致する回数です。もう一つのガリレオ衛星であり一番外側を周るカリストは他の3つと比べて軌道がやや傾いている事もあって、木星に影を落とす回数は少ないようです。同シミュレーションでは、この2月には一度も起こっていませんでした。写真の左側中央付近には衛星がもう一つ、エウロパの姿も写っています。この写真の後、エウロパは木星の手前を上を右へと進み、この写真のガニメデ同様、木星へ影を落とすこととなります。ガリレオ同様、天体望遠鏡を向けて初めて気づく、驚きに満ちた天体の運行が、営々と今日も続いていきます。



が見えました。作業から戻ったら「おつかレーばん☆」でひといきついでいただけるといいですね。
ちなみに現在、クリスマス。農業科を擁する浅間のクリスマスはかなり気合が入っており、玄関には植物活用コースのどデカイ生木のクリスマスツリーとリースなどを飾り付け。玄関前には生徒会がしつらえたイルミネーション。電気科オリジナルの校訓が書かれたイルミネーションライトは豪華9色に光っています。ここは一体どこでしょう？ 目の前の喧騒を忘れ優雅な気分になります。そして終業式にはどデカイ門松が設置されます。

第3回教文運営委員会開催
11月29日(土) オンライン

司会(牧内) 記録(吉沢)

1、開会・議長あいさつ

田沢秀子議長

・教文会議の意義

・処遇改善の問題点(担任手当)

2、情勢・経過報告

事務局

・賃金大幅アップ 資料あり

・総合研究会、県教研に関して

・12/6・7の総合研究会

開かれた学校づくり全国交流集会

・1/24 第5回ジェンダー平等研究会

・2/14 第4回教文運営委員会

・3/20 態勢確立集会

・匿名性を担保した授業評価・学校評価の記述

について(県は改善を検討)

・臨時支援金県単独措置

↓すべての生徒への授業料無償化

資料に高校教育課と信毎の記事あり

・給特法「改正」にともなう処遇改善について

資料あり

担任手当の扱いは担任に限定しない(学校長の裁量)

の裁量)

主務教諭の導入は行わない

・県教研の状況 参加率・20から30%

・教育課程研究協議会のあり方と今後について
・旅費の扱い等

3、支部活動(支部教研) 中間報告

・高水、長水、更埴、上小、佐久、上伊那、下伊那

松筑、安曇は開催

諏訪、木曾の3支部は開催せず 実施について

の検討、26年度の実施に向けての動きもある

・支部会費徴収について

4、研究会活動中間報告 別途詳細資料あり

各研究会から報告

国語、社会、理科、家庭科、職業教育・技術

図書館教育、学校保健、

参加と共同の学校づくり・子どもと地域、

青少年文化、人権平和・国際・環境教育

教育格差と貧困問題・教育条件整備、

キャリア教育・評価・進路指導教育、

ジェンダー平等、多様な学び・生徒理解と発達

以上各研究会の 会長から報告あり

外国語、数学、保健体育、事務、福祉教育と

芸術の各研究会は口頭での報告なし

5、討論

・教文活動、各研究会活動、支部・県・全国教

研支部教研、県教研の参加者の現状 コロナ

禍以前に比べ参加者が減少したまま

県教研で統合された分科会について、一部の

分科会で見直しの要望

・2026年全国教研 詳細日程・会場未定

レポート 国語、外国語、社会科、理科、技術職業、

家庭科、主権者の教育と生活指導・自治活動

子ども・青年たちの生きた社会づくり(2)

9本のレポート参加予定

6、その他

(1) 第4回・第5回総合研究会

第4回 12月6、7日

子ども権利条約を生かした参加と共同の学校

づくり

第5回 1月24日

ジェンダー平等の教育

いずれも高校会館で開催

(2) 第4回運営委員会

2026、2、14(土) 参集形式で実施

(3) 常任委員会・支部役員体制

(4) 当面の日程

(5) 2026年の日程等

7、閉会

第4回運営委員会
2月14日(土) 14時〜
松本勤労者福祉センター



運営委員会資料

第5回 教文総合研究会

ジェンダー平等の教育を考える

～構造を可視化する～

- 1. 日時 2026年1月24日(土) 10:00～16:00
- 2. 会場 高校会館 RINKS593 (長野市県町 593)
- 3. 内容 詳細は右 QR より

講演・報告

「ともにあたらしく ジェンダー 地域から

取材の現場から見えてきた構造～」

小西和香さん 河原千春さん

「トイレの男女格差」 百瀬まなみさん

「男子の『呪い』を解く ～有害な男らしさへの自己防衛を～」

佐藤知子さん

「私が私の主人公であるために 上野千鶴子から学んだこと

～高校生が作った対話の場 その一步が社会を変える～」

清水菜央さん (松本県ヶ丘高校卒業生)



参加申込はコチラ



総研詳細はコチラ

教文会議 第5回総合研究会
ジェンダー平等の教育を考える
～構造を可視化する～

2026年1月24日(土) 10:00-16:00
会場: 高校教育会館 RINKS593
オンライン併用

講演: 2025年度 長期連載
「ともにあたらしく ジェンダー 地域から」
～取材の現場から見えてきた構造～
百瀬まなみさん (行政書士) 河原千春さん (長野市高校 英語教諭)

報告: トイレの男女格差
百瀬まなみさん (行政書士)
男子の「呪い」を解く
～有害な男らしさへの自己防衛を～
佐藤知子さん (松本市高校 英語教諭)

わたしがわたしの主人公であるために
上野千鶴子から学んだこと
～高校生がつくった対話の場、その一步が社会を変える～
清水菜央さん (東京学芸大学1年 (松本県ヶ丘高校卒業生))

教文会議 長野県教育文化会議 ジェンダー平等の教育研究会
TEL: 026-234-2216 kyobun.nagano-h@educas.jp

書籍紹介

「学校の『男性性』を問う」(旬報社)

<目次>

序章 なぜ「男性性」を問うのか 前川直哉

1章 「指導力」という名の教員の「暴力」- 男性支配への合意を調達する仕組み

コラム エミールから現代まで

2章 「男性性」の“くびき”をまなざす

3章 「自分らしさ」では届かない場所へ- フェミニズムとともに歩む教室の実践

4章 男子の聖域

コラム 田中・福島往復書簡一闖入者たちの対話――

5章 男子校でこそ感情の言語化を

6章 トラブルとしての異性装

コラム 私が「学校の男性性」を感じる時――アンケート結果から

7章 フェミニズムから男性性を問うことはできるか

技術職業教育研究会全県研究会 実践報告&研究協議

高校専門教育の再編と職業教育の創造

～地域と結びついた職業教育の実践～

- 1. 日時 2026年1月31日(土) 13:30～16:00
- 2. 会場 塩尻総合文化センター



2025年10月26日 種子島宇宙センターにて人工衛星「てるてる」の打ち上げを見届けて駒ヶ根工業高校の生徒の皆さん

3. 内容

I 実践報告

超小型人工衛星「HMU-SAT2 (愛称: てるてる)」を宇宙へ

「Space Dream Innovation Challenge

～宇宙から愛を。遠い場所の、大切な君へ～」

報告者: 駒ヶ根工業高校 工業科 林厚志さん

II 研究協議

(1) 県教研「技術・職業教育分科会」報告

(2) 第2期高校再編における専門高校の集約化

※参加申込・問い合わせは篠原章浩さん (小諸商業高校)



← 超小型人工衛星

「てるてる」って?

駒ヶ根工業高校

宇宙航空研究 G